

4 農業・農地の保全

【農業と農地の保全に取り組みます】

柴又は、水陸交通の要衝であるだけでなく、古くは微高地上に農業を生業とする集落によっても開発されてきました。門前は周辺の農家が副業的に設けた生業の店舗が立地することで発達し、周囲の微高地にも農家に由来する旧家が現存しています。

柴又の文化的景観を形成する重要な要素として、地元農家や関係機関と協力しながら、生業としての農業や農地の保全に取り組んでいきます。

今後、地元の皆様の意見を整備計画に反映させるために ワークショップ(意見交換会)などを開催していきます。

整備計画に柴又地域の皆様のご意見を反映させるために、ワークショップ(意見交換会)などを開催していきます。

ワークショップ(意見交換等)の開催につきましては、新型コロナウイルス感染症対策を万全に行った上で、社会状況を踏まえながら本年度中に開催できるよう準備を進めております。

準備が整い次第、博物館ホームページ(<https://www.museum.city.katsushika.lg.jp>)等を通じて皆様にお知らせさせていただきますので、ご参加等よろしくお願いたします。



【このチラシに関するお問い合わせ】

葛飾区郷土と天文の博物館(文化的景観担当)

〒125-0063 葛飾区白鳥3-25-1

TEL 03-3838-1101/FAX 03-5680-0849



「葛飾柴又の文化的景観」ニュース

「葛飾柴又の文化的景観」を守っていくため、

区では**整備計画の策定**に取り組んでいます！

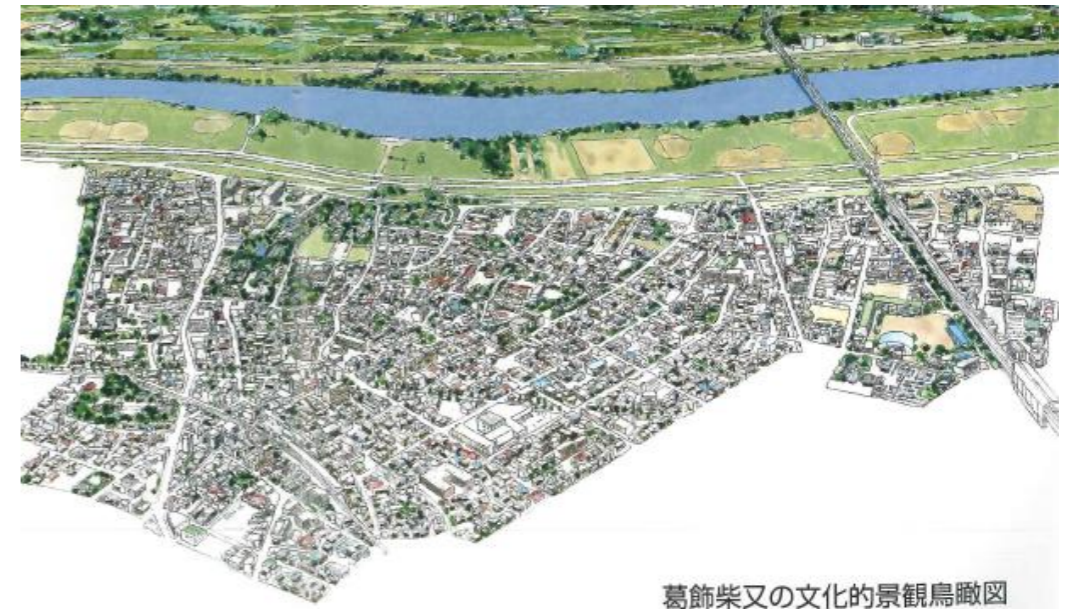
平成30年2月、葛飾柴又は景観の文化財といわれる国の重要文化的景観に選定されました。

地域の皆様が大切に守り、継承してきた街並みや生活が文化財として評価され、東京都内初の重要文化的景観として国から選定されました。

葛飾区では、地元の方々とともに葛飾柴又の景観を守りながら、柴又の魅力を発信していきます。

街並みの保全や生業の継承といった課題がある中で、整備計画は地元の皆様とともに、今の柴又の街並みを将来にわたり保全・継承するための計画です。

柴又の現状の課題や将来像、整備方針などについて、葛飾柴又の文化的景観保存・活用推進委員会にて、地元の皆様や有識者とともに議論を重ねながら令和3年3月の策定に向け取り組んでいます。



葛飾柴又の文化的景観鳥瞰図

【重要文化的景観とは？】

文化的景観は、景観の文化財として、歴史風土を伝える日々の生活に根ざした身近な景観を文化財保護法で保護する制度であり、その文化的な価値を正しく評価し、地域で守り、次世代へと継承していくことを目的としています。

その中でも特に重要とされたものは重要文化的景観として国から選定されます。日本全国で65件(令和元年10月現在)選定されており、そのひとつが「葛飾柴又の文化的景観」です。現時点において東京都内では唯一選定されているものです。

「葛飾柴又の文化的景観」とは？

1 葛飾柴又の文化的景観の価値と保存活用について

柴又は、都市としての発展を遂げながら、高度経済成長期以降に失われつつある下町風景や農地を残す、都内では貴重な街並みです。

この街並みは、江戸川に育まれてきた豊かな自然と文化が江戸時代から引き継がれ、帝釈天題経寺を核として、農地や参道の人々が協力しながら、過去から現在まで生業を継承し続けたことで奇跡的に形成されました。歴史的、地形的経緯に加え、皆様のこうした生業が評価され、国の重要文化的景観に選定されました。

私たちはこれからも、柴又の景観を継承していかなければなりません。

一方で、都市として、観光地としての発展、地域の安全性を確保するための開発行為なども行われています。

景観と開発を両立するために、地元の皆様と議論を進めながら整備計画を策定し、葛飾柴又の文化的景観の保存活用を進めてまいります。

2 葛飾区は葛飾柴又の文化的景観を保全していくため、以下のことに努めています

【基本方針】

現在の柴又の景観を保存・継承していくため、「調和の取れた土地利用」と「文化的景観の特徴を示す構成要素の保存と継承」に努めるとともに、地域の「伝統的な生活・生業の継承と発展」を支援していくことを基本方針としています。

地域の皆様とともに文化的景観の保全を進めるとともに、文化的景観の基盤をなす地域コミュニティ活動への支援を推進し、保全のための具体的な支援制度や文化的景観の価値、地域の魅力を高めるための整備を進めます。

(1) 調和の取れた土地利用

帝釈天題経寺及び門前、国分道沿いにかけて広がる微高地等の市街地においては、今後も、現在の景観を継承する土地利用に努め、江戸川河川敷などの自然環境との調和にも配慮していきます。

(2) 文化的景観の特徴を示す構成要素の保全と継承

街道や路地、店舗や旧家、用水(跡)、寺社など個々の物件の保全に努めるとともに、特に重要な構成要素として特定したものについては、必要に応じた修理・修景を行うなど、所有者等と協力し適切な保存管理を図っていきます。

(3) 伝統的な生活・生業の継承と発展

参道は、飲食店や土産物店などが軒を連ね、独特の賑わいのある空間が形成されるとともに、その周辺では旧家や農地が残されており、こうした伝統的な生活・生業の継承に関して、関係団体とも連携しながら支援に努めます。

※ 葛飾柴又の文化的景観保存計画（葛飾区、平成30年3月）より。計画は郷土と天文の博物館ホームページ（<https://www.museum.city.katsushika.lg.jp>）でご覧いただけます。

3 葛飾柴又の文化的景観対象区域図

第1のリングから第2・第3のリングを合わせた地域が文化的景観の対象区域となります。

★ 第1のリング

「帝釈天題経寺と門前からなる地域」

★ 第2のリング

「帝釈天題経寺と門前を支えたかつての農村部（微高地）地域」

★ 第3のリング

「大都市近郊の低地開発の歴史を伝える地域」

